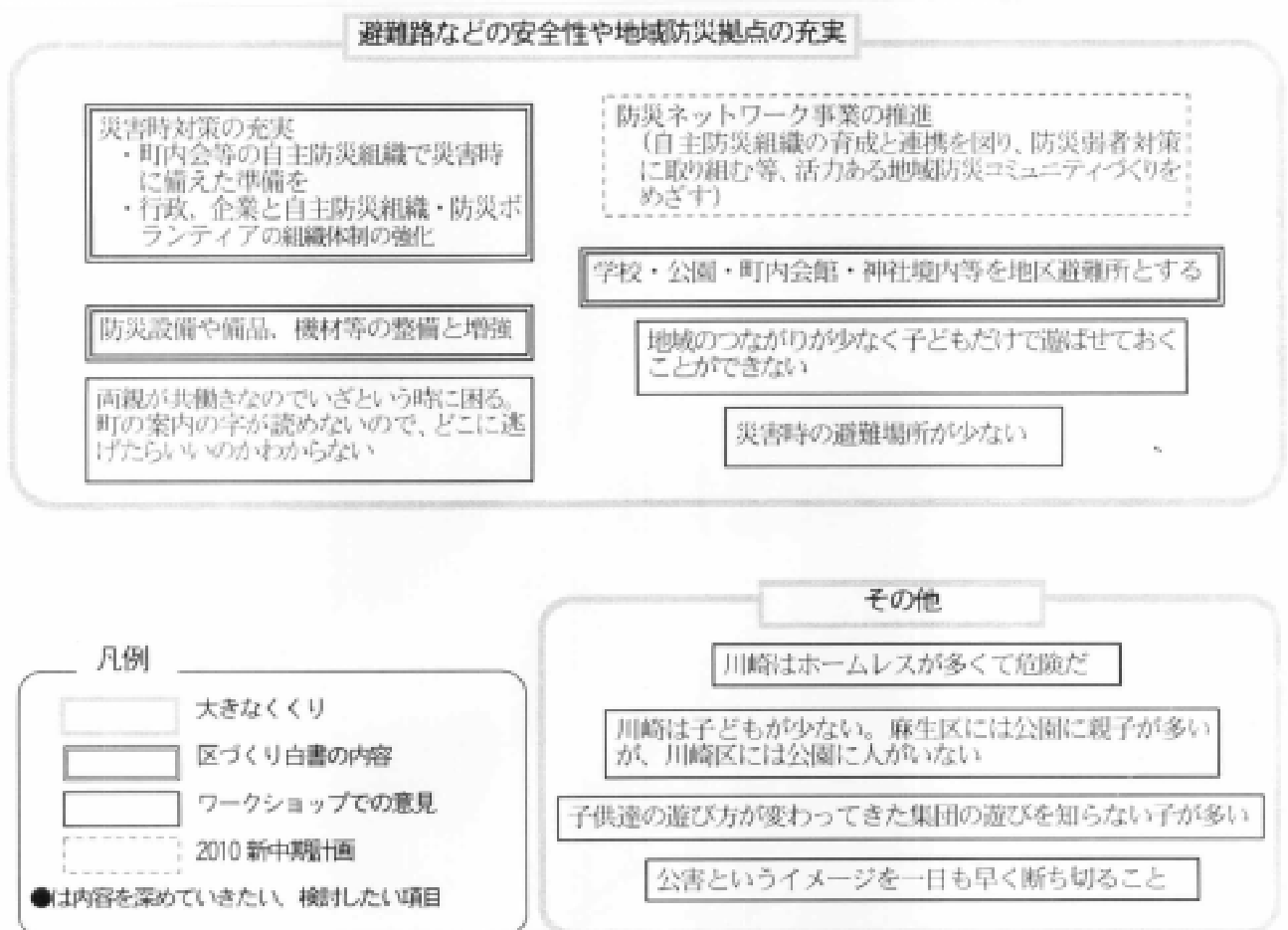


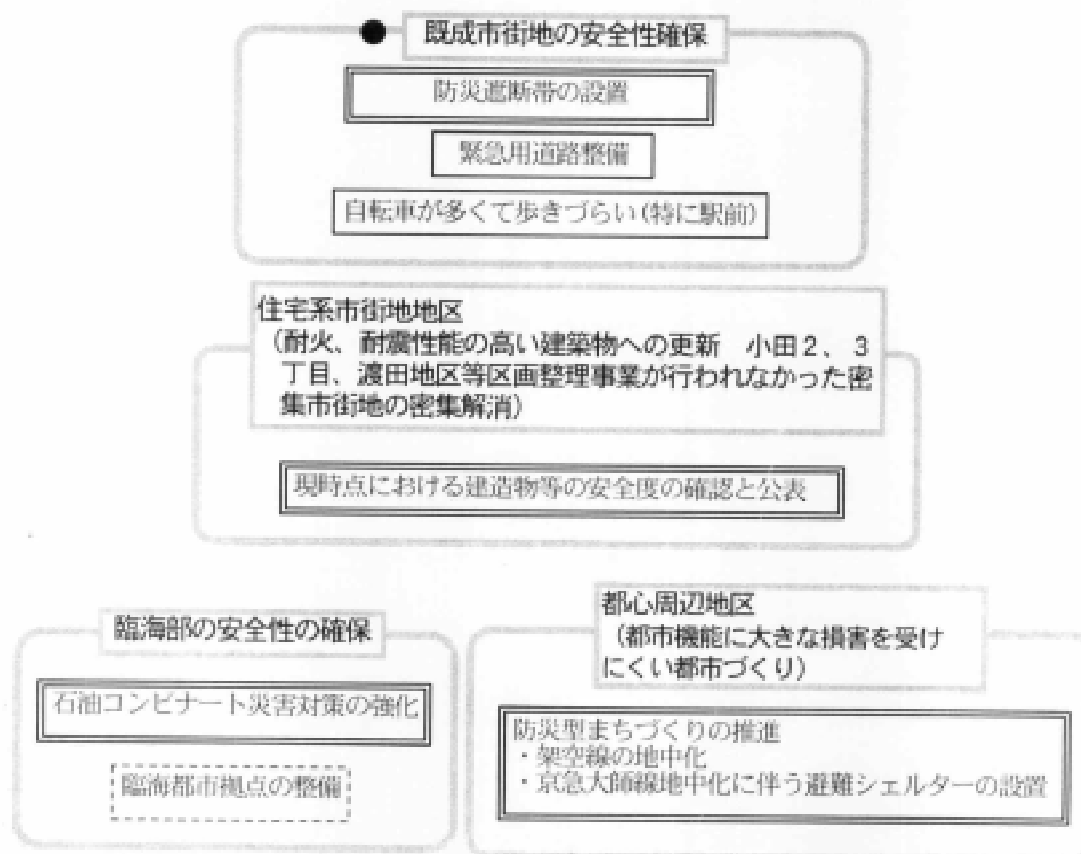
○ 防災

① 課題の分類

ワークショップで出された防災の課題を分類し、図にまとめました。

●課題のまとめ図







【コラム】

ワークショップや中間報告会での意見を紹介します。

- ・ いずれくる大地震に対して現在の川崎区は殆ど無防備といえる。まず災害に強い街づくりを最優先に、交通、住環境その他すべてを防災を骨子とした方向で行くべきである。
- ・ 川崎区の防災を考えると、日本を代表する石油コンビナートが思い浮かぶ。石油コンビナートと住民との接点、石油コンビナートの危険性の勉強会、企業任せでよいのか？
- ・ 災害時の避難場所が少ない。
- ・ いつ起こるかわからない“災害”への対応として、いざというときの知恵。救助しやすい道（消防車の通れる道）など災害に対してもっと議論してみても？
- ・ 区づくり白書で防災型街づくりに取り組んだ経験から防災の課題の大切さを感じている。阪神大震災5年でもう風化が言われることが気になる。他の課題は夢を取り込むプラスイメージに対し、防災は守りのイメージなので同一線上で論ずるのは難しさがあるのでは。
- ・ 防災問題はいつ起きるかわからない課題であると思うのでなるべく早く取り組む。
- ・ 防災への取り組みが不十分。
- ・ 防災に対する具体的な内容が欲しい。

② 今後の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

基本方針を考えるワークショップでは、住民による防災組織の充実や、避難する場所の確保などによって、地域で災害に強いまちとすること、緑地帯により災害が広がらないようにすることの評価が高く、防災は先ず自分のできるところからやっていくと同時に基本計画などで防災を位置づけ、時間がかかっても災害に強い街の骨格を形成していったほしいという意見がでました。

【コラム】

第3回ワークショップでは分野ごとの大切にしたい考え方をみんなで共有化するために、事務局の準備した基本方針を旗揚げ方式で評価し、その理由について議論しました。

①火災や地震に強い建物づくりなど個人が日頃から備えておくこと

- ・都市計画の作り直しができ実行できるならば、そうするべきだが、100年～200年もかかるだろうと考え、先ず自分から出来ることをする。
- ・火災や地震に対する備えは、まずは自分でやるということが大切である。

②住民による防災組織の充実や、避難する場所の確保などによって、地域で災害に強いまちとすること

- ・地域住民による防災組織での活動が大切となる。
- ・日頃の防災組織による活動により、災害時の対応が出来るようになる。
- ・区画整理も出来ないのに③は無理。現状を確認して組織づくりをしたい。

③大きな緑地帯などで区をいくつかに区切って、災害が広がらないようにすること

- ・防災は行政が推進役として進むのが大切ではないのか。
- ・都市マスタープラン作成にあたって、より防災に強い街を作って行きたい。
- ・道路に緑地帯を造るのに空間があるか。ぜひ可能にしてもらいたい。大災害があることを忘れないで。
- ・災害時には少なからずパニックが起き、特に火災を広げないこと、逃げやすいことを重点に考えた。
- ・火災を防ぐためには必ず必要である。

③ 土地利用・防災の課題図



